

【小項目評価基準】
 評価5・・・年度計画を大幅に上回って実施している。
 評価4・・・年度計画を上回って実施している。
 評価3・・・年度計画を順調に実施している。
 評価2・・・年度計画を十分に実施できていない。
 評価1・・・年度計画を大幅に下回っている。

参考資料4

地方独立行政法人福岡市立病院機構 令和2年度の業務実績に関する評価結果(案)まとめ

| 大項目 | 小項目 | 目標値有無 | ウエイト | 自己評価 | 第1回評価委員会意見 | 市評価 | 評価の判断理由・評価のコメントなど | 資料頁 | |
|---|-----------------------|-------|------|------|------------|---|---|---------|-------|
| 第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 | | | | | | | | | |
| 1 医療サービス | (1) 良質な医療の実践 | 子ども | ○ | 2 | 4 | 4 | ○ 胎児循環器科における胎児診断に基づき適切な出生後治療の連携強化、多職種共同の「入院支援推進チーム」による入院支援の拡大、診療機能の強化・充実に取り組んでいる。 ○ コロナの影響を受けて、多くの指標で目標値を下回ったものの、入院単価や外来単価は目標値を上回っており、また、コロナ対策において、福岡市立子ども病院に求められる役割を果たすべく、コロナ病床の確保や環境の整備などに積極的に取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。 | 22～25 | |
| | | 市民 | ○ | 2 | 4 | 4 | ○ 「食道疾患センター」の設置、密な院内連携体制構築による積極的な重症患者の受入れなど、診療機能の強化・充実に取り組んでいる。 ○ コロナの影響を受けて、多くの指標で目標値を下回ったものの、入院単価や外来単価は目標値を上回っており、また、「第2種感染症指定医療機関」として、コロナ対策における「福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、一部病棟をコロナ専用病棟に転化し、一般患者の受入れを継続しながら、中等症以上の患者を中心に患者を積極的に受け入れており、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。 | 26～31 | |
| | (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 | 子ども | ○ | 2 | 3 | 3 | ○ レスパイトの受け入れの実績値は、前年と比べて遜色ない数値といえる。その他の取組も、コロナ禍の中で前年度と同等の取組が維持できたことは高く評価できる。 | 32～35 | |
| | | 市民 | ○ | 2 | 3 | 3 | ○ 福岡市だけではなく県内から広く患者を相当数受け入れており、評価できる。 ○ 在宅療養支援のためのカンファレンス件数が伸びており、評価できる。 | 36～39 | |
| | (3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 | 子ども | × | 2 | 4 | 4 | ○ 災害発生に備えた訓練の実施や設備・物品点検の徹底、「広域災害時の相互支援システム」における九州地区の幹事施設としての関係機関との連携強化、大規模災害等発生に備えた緊急時参集システムの導入、福岡市立子ども病院事業継続計画詳細版の策定など、災害時の体制強化に取り組んでいる。 ○ コロナ対応においては、院内感染防止に的確に取り組みながら疑似症患者を含むコロナ患者の受入れに対応するなど、迅速かつ的確に対応がなされたものとして、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。 | 40～43 | |
| 市民 | × | 2 | 5 | 5 | 5 | ○ 職員のメンタルヘルス、モチベーション維持の取組が重要である。 ○ クラスターを発生させていないなど、コロナ禍に適切に対応しており、評価5は適当と思われる。 ○ 福岡市の感染症対策の中核的な病院として重要な活動をした。 ○ コロナの対応について、市内の他の医療機関との空きベッドの調整が重要な点である。 | 44～47 | | |
| 2 患者サービス | (1) 患者サービスの向上 | 子ども | ○ | 2 | 4 | 4 | ○ LINEの活用やプレレジャー動画作成など、効果的な取組として評価できる。 ○ LINEによる再診予約は、再診予約全体の約87%と聞いているが、こうした取組は、主に30歳代・40歳代の保護者にとって使いやすいのではないかと、すばらしい取り組みだ。 | 48～51 | |
| | | 市民 | ○ | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 52～53 |
| | (2) 情報発信 | × | 1 | 3 | 3 | 3 | ○ コロナの診療という貴重な経験を、積極的に情報発信に取り組んでどうか。両病院のプレゼンスを示す良い機会になるのではないかと。 | 54～57 | |
| 3 医療の質の向上 | (1) 病院スタッフの確保と教育・研修 | 子ども | × | 2 | 3 | 3 | ○ 令和2年度は集合研修を見合わせた病院が多かったため、Web等による研修を実施していることは評価できる。 ○ 年休の取得について、年間5日取得の徹底に加え、前年度比での取得日数増減など様々な視点で取得促進を図っていくべきと考える。 | 58～61 | |
| | | 市民 | × | 2 | 4 | 4 | ○ 職員のメンタルサポートの取組についての記載がないが、コロナ禍においては特に、そうした取組は重要だと考える。 ○ 年休の取得について、年間5日取得の徹底に加え、前年度比での取得日数増減など様々な視点で取得促進を図っていくべきと考える。 | 62～65 | |
| | (2) 信頼される医療の実践 | 子ども | ○ | 2 | 4 | 4 | ○ 一部の指標が目標値に達していないが、院内外の連携による感染防止対策や全職員対象とした医療安全キャンペーンによる医療安全対策などの強化、クリニカルパスの使用率の向上、薬剤管理指導や栄養指導などによる安全・安心な医療の提供に継続的に取り組んでいる。 ○ コロナ禍において、専従看護師の増員や部門間連携を推進し、感染防止対策を徹底することにより、院内クラスターを発生させず、医療機能を可能な限り維持したことなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。 | 66～69 | |
| | | 市民 | ○ | 2 | 3 | 4 | ○ 院内感染対策については、全職員を対象とした訓練や研修による医療安全対策の徹底、他病院との相互評価、全てのクリニカルパスの改定などに取り組んでいる。 ○ これらの様々な取組により、院内クラスターを発生させず医療機能を可能な限り維持するとともに、感染予防策の有効性について検証し、学会誌への論文発表を通じてその成果を公表するなどの取組を行った。また、医療安全に関する組織のあり方について新たな調査を実施し、客観的な分析や改善に取り組むなど、年度計画を上回って実践していると判断されるため、「評価4」とする。 | 70～73 | |
| 第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 | | | | | | | | | |
| 1 | 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実 | × | 1 | 3 | 3 | 3 | ○ 理事会の開催にあたり、理事などの委員の出席率は高いということで、適切に運用されていると判断できる。 | 74～75 | |
| 2 | 事務部門の機能強化 | × | 1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 76～77 | |
| 3 | 働きがいのある職場環境づくり | × | 1 | 3 | 3 | 3 | ○ 離職率5%台はすばらしい数値。取り組んだ内容があれば、しっかりアピールされたい。 | 78～79 | |
| 4 | 法令遵守と公平性・透明性の確保 | × | 1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 80～81 | |
| 第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置 | | | | | | | | | |
| 1 経営基盤の強化 | (1) 経営基盤の強化と運営費負担金の縮減 | 子ども | ○ | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 82～83 |
| | | 市民 | ○ | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 84～85 |
| | (2) 投資財源の確保 | × | 1 | 3 | 3 | 3 | 3 | 86～87 | |
| 2 収支改善 | (1) 収益確保 | 子ども | ○ | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 88～91 |
| | | 市民 | ○ | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 92～95 |
| (2) 費用削減 | ○ | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | ○ 診療材料費について、ベンチマークデータの活用や、価格交渉を積極的に行い費用削減を図ったことは、評価できる。 ○ 両病院において、費用削減に努め非常に大きな金額の削減に成功しており、評価できる。 | 96～99 | |
| 第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置 | | | | | | | | | |
| 1 | 福岡市立子ども病院における医療機能の充実 | 子ども | × | 2 | 4 | 4 | ○ 臨床研究や治験業務の推進、国際的な視野に立った人材育成などに積極的に取り組んでいる。 ○ 新たに科学研究費助成事業研究に採択された研究への参加、新規案件開始につながった治験業務の強化・充実、職員の外国語能力・コミュニケーション能力のさらなる向上などに取り組んでおり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。 | 100～103 | |
| 2 | 福岡市民病院における経営改善の推進 | 市民 | × | 2 | 3 | 4 | ○ 高度専門医療や高度救急医療の提供など、求められる役割を果たしながら、収益向上及び経費削減による収支改善、中長期修繕計画の見直しや計画的な施設・設備の維持管理などに取り組んでいる。 ○ コロナ禍において、通常医療を途切れさせず、一般病床の病床稼働率を高水準に保つとともに、一般病床のコロナ病床への転化や医療スタッフの柔軟な配置など医療資源を効率的に活用し、福岡市におけるコロナ対策の中核的な役割を果たした。収支面では、コロナ対策に伴う国や県からの補助金交付もあり、経常収支の黒字化を達成するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。 | 104～107 | |